

	課題分析	授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・「全国学力・学習状況調査」において、「国語の勉強は好きですか」の質問に対して、否定的な回答をした生徒が37%近くいた。また、「国語の授業の内容はよく分かりますか」の質問に対して、否定的な回答をした生徒が26%いた。 ・「全国学力・学習状況調査」において、全国の平均正答率を3%上回ったが、「我が国の言語文化に関する事項」に関する問題の正答率は平均を10%近く下回っていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・苦手意識をもっている生徒が多い古典や詩歌、短歌や俳句の単元では、ICT機器を積極的に活用する。現代語訳から原文の意味がしっかり読み取れるよう、単元に応じて「わかりやすい授業」を計画する。生徒が意欲的に授業に取り組む環境を作る。 ・漢字の学習だけでなく、熟語や文法、書写における書体の知識など、言語文化に関わる内容についても、授業で積極的に取り上げ、確認していく。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートを実施し、「授業の内容がよく分かる。」という質問に対して、第2学年では、2.4%、第3学年では、18%が否定的な回答をした。 ・第2学年では、授業中の発言が少なく、発言に対して抵抗が見られる。 ・第3学年では、授業中の発言は多くみられるが、一部の生徒の発言によって偏っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストを実施し、学習のつまずきがどこにあるのかを把握し、授業中やプリントを活用して、補足の説明を行う。 ・グループワークを積極的に行い、意見の構成や交流の機会を多くつくる。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・「全国学力・学習状況調査」において、「数学の授業の内容はよく分かりますか」の質問に対して、否定的な回答をした生徒が25%近くいた。 ・「全国学力・学習状況調査」において、全国の平均正答率を10%上回ったが、関数に関する問題の正答率は平均を下回っていた。また、図形に関する問題の正答率が50%を下回っていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の理解力や定着具合に応じた授業を展開する。また、学力向上支援講師と連携し、生徒が質問しやすい状況を作る。 ・基礎基本の定着を目指し、授業内で多くの問題に取り組ませる。特に関数や図形の単元においては、同じパターンの問題を繰り返し解かせていく指導が必要である。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の生活体験の差が基礎的な自然の事物、現象についての理解度に大きく影響し、一部に授業の内容が分からないという生徒が存在する。 ・自然の事物、現象から問題点を見だし、観察、実験結果を分析、解釈、表現する力が十分に身に付いていない生徒が存在する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の生活体験を科学的な視点で捉え、多面的な思考を繰り返すことができるような環境を、授業および、学校生活全体の中で整えていく。 ・ICT機器の活用を増やし、不足する生徒の生活体験を動画の視聴やシミュレーションなどを通じて補い、理解が深まる授業を展開する。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的内容や表現の技術を定着させる。 ・音楽用語、読譜力の定着を図る。 ・曲の分析をする姿勢を身に付けられるように自ら考え、学習していく力を付けさせる。 ・基本的奏法を身に付けさせ、発展へとつなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発声法、構え方など基礎的知識をICT、ペアワーク、グループ活動を取り入れる。 ・知識の定着については、学習ツールを利用しながら繰り返し学習を重ね、定着させる。 ・器楽においては、一人一人の技術や進み具合を把握し、個々に合った進度で、ペアワーク、グループ活動を取り入れながら課題を進めていく。適宜ICTを利用していく。

美術	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に配慮した基礎的な用具の使い方を身に付けさせることができている。 ・ポスターカラーの特性を理解し、絵の具道具を適切に使えているが、まだ自己流になりやすい面もある。 ・（1年生）前向きに授業を受けており、充実した制作時間が過ごせている。 ・（2年生）透視図法の基本とポスターカラーの特性を理解することができた。発想したことを順序立てて紙面に描いていくのはまだ苦手である。 ・（3年生）講義内容を理解し、必要なことをメモしながら聞くことができている。 ・デッサンの基本を理解することができたが、自分のイメージしたことを表現できるようになるために、引き続き実制作を通して学ぶ必要がある。 ・3年生は、既習したことを自分の作品に取り入れて表現することができるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スモールステップで、ゆっくりと丁寧に指導していく。個別指導ができるように授業の組み立ての見直しをする。 ・複数の資料を用意するとともに、適切なタイミングで生徒に提示し、作品に生かせるようにする。 ・色や形の美しさを発見し、配色や構成の効果を考えながら平面や立体で表すことができるよう図や表の提示を工夫する。 ・自分らしいものを作ることを意識させ、自分の感じたことや考えたことを意図的・計画的に表現させる。 ・教科書や生徒作品、名画、映像など、複数の作品を鑑賞し、感性・表現の多様さを学ばせる。また、作品に自分の感性を反映させられるように指導していく。 ・制作に興味をもてるように、モチーフやテーマの設定を題材によって変える。 ・美術室の教材を充実させ、発想の幅が広がるようにしていく。（参考資料の充実）
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で ICT 機器の活用し、自己の技能の定着や知識を広げるために必要な情報を収集し、それを授業の場面で活用することを定着させる。 ・学習カードを活用方法し、課題に対するアプローチの仕方を記述することができていない。 ・得意、不得意にとらわれず、運動を多面的にとらえ面白さを見付けることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・種目によるが、効果的な ICT 機器の活用を進める。 ・課題をはっきりさせ、学習カードを活用し振り返りや考えをまとめることができるようにする。 ・運動の面白さに触れられる授業展開の工夫をする。
技術・家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの生徒は主体的に学習に取り組む態度・姿勢をもっている。しかし、実体験不足から技能や思考・判断に関する力が不十分だと思われる。 ・基礎的、基本的な内容を十分習得させ、さらに発展させ生活に生かす力を身に付けさせる題材や指導方法を工夫する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活に生かせる力を身に付けさせるために、日常生活と関連付け、より実践的・体験的な製作と実習を多く取り入れた授業を実施する。 ・製作を通して仕事の楽しさや完成の喜びを味わえるように工夫する。生活に必要な技能の定着を図る。
外国語（英語）	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の定着が不十分な生徒がいる。 ・ペアワークやグループワークなどは全体的に真面目に取り組んでいるが、受け身な生徒もいる。 ・英語のプレゼンテーションなどは、意欲的に取り組んでいる生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎授業で目標や授業の流れを提示する。また、振り返りの時間を設ける。 ・ALT を活用したり、ペアワークを行う時間を多く設けたりなど、生徒が英語を話したり聞いたりする機会を多く設ける。